

平成 18 年度愛知県図書館サービス計画

この計画は、「県民に開かれた図書館」「資料情報センターとしての図書館」「県内の市町村立図書館へのバックアップを行う図書館」「愛知芸術文化センターの一翼を担う図書館」という愛知県図書館の基本理念に基づき、平成 18 年度中に行う図書館サービスを示し、達成すべき数値目標を明らかにするものです。

1 平成 18 年度のサービス計画についての基本的な考え方

18 年度は、資料費が 8,296 万円と 1,000 万円増額され、平成 11 年以来使い続けてきた電算システムも更新（平成 19 年 3 月予定）することになりました。これまで、資料費の不足や電算システムが古いためにできなかったサービスを行なうことが可能になりました。資料費、電算システムとも、より良い図書館サービスを提供するための効果的な活用方法を検討していきます。

ことに、資料収集については、昨年 12 月に行った[来館者アンケート調査](#)の「本・雑誌の量や種類」の質問の回答で、重要度と満足度に大きな隔たりがあったこともあり、収集する資料の幅や種類についても再度検討する必要がでてきました。

こうした新たな課題に対応するとともに、レファレンスの強化、市町村立図書館への支援、県域全体へのサービスのような基本的なサービス、ビジネス情報の提供、青少年層に向けたサービスなどのような利用者層に応じたサービスの強化をさらに推し進めていきます。

2 特に重点をおいて取り組むサービス

（１）レファレンス（調査相談）サービス

レファレンスサービスとは、図書館の資料を使って、資料や情報を探すお手伝いをするサービスです。愛知県図書館では、レファレンスサービスをもっとも重要なサービスの一つと位置付け、重点的に取り組んでいます。

17 年度はレファレンスカウンターの強化、専用電話の開設、メールレファレンスの開始等を行い、このサービスを強化しました。しかし、昨年 12 月の来館者アンケート調査によれば、「レファレンスサービスを知っている」と答えた方は 45.7%と半数程度にとどまっています。今年度は更に利用者の皆さまに知っていただき、利用していただけるよう、PR にも力を入れて取り組みます。

（２）市町村立図書館への支援、県域全体へのサービス

愛知県図書館は、県内市町村立図書館への支援を基本理念の一つとして掲げています。市町村立図書館を通じて県内全域の県民の皆様に愛知県図書館の資料を貸出す協力貸出は、支援の中心業務です。残念なことに、この協力貸出の冊数が、最近足踏み状態が続いています。これには、県図書館の資料収集の質や量も関係あるものと思われます。このため、市町村立図書館や公民館図書室が必要とする資料は何かという点から資料収集を見直していきます。また、電算システム更新にともない新サービスの展開も検討していきます。

（３）利用者層に応じたサービス

ア ビジネス情報の提供

ビジネス情報コーナーの資料の一層の充実を図ります。

法律、経済、経営関係図書など、コーナー以外の資料との連携を図った情報提供をしま

す。

オンラインデータベース（日経テレコン 2 1、判例体系）を活用し、情報提供能力の向上を図ります。

イ 少子、高齢化に対応した資料の提供

医療・健康・介護及び子育てに関する資料の充実に努めます。

大活字本など高齢者に使いやすい資料の充実に努めます。

少子化、高齢化に関わる資料の充実に努めます。

ウ 青少年・児童を対象にしたサービス

児童部門では、17 年度に引き続き、お話し会などの催しをおこない、読書に親しむ機会の拡大をめざします。

ティーンズコーナーでは、コーナーを拡大しノンフィクション部門の充実に努めます。

エ 在住外国人に対するサービス

多文化サービスコーナーを設置し、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語図書の充実に努めます。

在住外国人の方々に、愛知県図書館のサービスをお知らせしていきます。

3 数値目標

サービス計画の達成度を測るため、数値目標を設定します。数値目標は、特に重点をおいて取り組むサービスに対応するもの 4 点をあげました。

(1) レファレンス件数

カウンター、電話、メールなどでお受けするレファレンスの件数は、17 年度 28,457 件（前年比 104%）でした。

この件数を 20 年度までの 3 年間で 33,000 件を超える数にします。18 年度は、30,000 件（前年度比 105%）をめざします。

(2) 県内市町村立図書館等への貸出冊数

県内市町村立図書館、県内の大学、高校をはじめとする学校図書館、専門図書館等、県内の図書館への資料貸出冊数は、17 年度 12,590 冊（前年比 103%）でした。

この冊数を 20 年度までの 3 年間で 14,000 冊を超える数にします。18 年度は、13,000 冊（前年比 103%）をめざします。

(3) 児童資料の貸出点数

児童室とティーンズコーナーにある児童資料の貸出点数は、17 年度 66,236 点（前年比 109%）でした。

18 年度は、69,000 点（前年比 104%）をめざします。

(4) 来館者アンケート調査における「本と雑誌の量や種類」

17 年度の来館者アンケート調査において、重要度が 3.6 ポイントと最も高かったこの項目で、満足度が 3.0 という低いポイントに止まりました。

18 年度は、満足度 3.2 ポイントをめざします。